

なごや生きもの一斉調査 2024

アメリカザリガニと エビ・カニ類 編

調査結果報告書

実施日 2024年9月29日(日)・10月5日(土)・6日(日)

調査場所 名古屋市内の31地点



なごや生きもの一斉調査2024 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～ 調査結果報告書

発行：なごビオ(なごや生物多様性保全活動協議会)

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 TEL:052-831-8104 FAX:052-839-1695

監修 中嶋清徳(名古屋港水族館・(公財)名古屋みなと振興財団)

編集 なごビオ事務局



2025年3月発行



主催

なごビオ(なごや生物多様性保全活動協議会)



協力

公益財団法人
名古屋市みどりの協会

監修

中嶋清徳
(名古屋港水族館・(公財)名古屋みなと振興財団)

目 次

1. 概要	1
1-1 目的	
1-2 実施体制	
1-3 ワーキンググループ	
2. 実施内容	2
2-1 調査日時	
2-2 調査地点	
2-3 調査方法	
2-4 参加団体	
2-5 参加者数	
2-6 調査の流れ	
3. 調査結果と考察	5
3-1 調査結果	
3-2 調査地点別の特徴	
3-3 考察	
3-4 各種の解説	
3-5 調査後のアンケート	
4. 同定資料	24
5. 活動アルバム	28

1. 概要



1-1 目的

なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）は、なごやに生息する生物及びその環境の継続的な調査を行い、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除など身近な自然の保全を実践することを目的として、2011年5月15日に設立されました。2024年9月末現在、72の会員（団体会員42、個人会員29および名古屋市）により構成されています。

なごビオでは、その活動の一環として、1年に1回、なごや生きものの一斉調査を実施しています。

2024年度はアメリカザリガニとエビ・カニ類を対象として一斉調査を行いました。調査する意義は次の3つです。

- (1) 身近なため池や河川でアメリカザリガニやエビ・カニ類の生息状況を調べることで、地元の自然環境に興味をもってもらう機会を提供します。また、様々な環境に多様な生きものが生息していることを知っていただき、生物多様性について学びきっかけを提供します。
- (2) アメリカザリガニはとても身近な生きものですが、水辺の在来生物や生態系に大きな影響を与えており、2023年6月に条件付特定外来生物に指定されています。アメリカザリガニなどの外来生物が引き起こす環境問題について考える機会となります。
- (3) 市内全域でのエビ・カニ類の調査は10年振りとなります。アメリカザリガニなどの外来生物の侵入・定着状況を確認できるとともに、市内に生息するエビ・カニ類の分布状況を把握することができます。

1-2 実施体制

今回の一斉調査も、昨年に引き続き、学校にも調査に参加していただき、市内31地点で実施しました。実施体制は以下のとおりです。また、名古屋港水族館・（公財）名古屋みなと振興財団の中嶋清徳氏に監修をお願いしました。

【主 催】なごビオ（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）

【協 力】公益財団法人 名古屋市みどりの協会
名城大学附属高等学校、名古屋市立桜台高等学校

【監 修】中嶋清徳（名古屋港水族館・（公財）名古屋みなと振興財団）



1-3 ワーキンググループ

今回の一斉調査では、水辺の生きものの部会員、甲殻類の専門家、名古屋市環境科学調査センター、事務局で構成するワーキンググループ（以下「WG」という）を設置し、調査場所の選定や調査方法の検討を行うとともに、調査結果をまとめ報告書を作成しました。

【構成メンバー】小菅 崇之（水辺の生きものの部会・部会長）
鵜飼 普（水辺の生きものの部会／愛知守山自然の会）
浅香 智也（水辺の生きものの部会／三河淡水生物ネットワーク）
鳥居 亮一（水辺の生きものの部会／三河淡水生物ネットワーク）
中嶋 清徳（名古屋港水族館・（公財）名古屋みなと振興財団）
岡村 祐里子（名古屋市環境科学調査センター）
大畑 史江（名古屋市環境科学調査センター）
福岡 将之（名古屋市環境科学調査センター）
事務局（名古屋市環境局なごや生物多様性センター）

【WG会議の実施状況】

2024年4月26日、5月17日、7月4日、10月19日、2025年1月7日、2月17日、3月4日

2. 実施内容



2-1 調査日時

【日程】2024年9月29日（日）、10月5日（土）、6日（日） 【時間】10:00～12:00の2時間程度

2-2 調査地点

名古屋市内のため池や河川など、計31地点で実施しました。

全ての調査地点は、安全に調査が実施できることやワナを設置できる環境があることなどを条件としてWGが選定を行いました。また一般市民がリーダーを務めたものを本調査、WGによって調査を実施したものを補足調査としました。（本調査22地点、補足調査9地点。p4参照）

2-3 調査方法

調査ではワナ（モンドリ）を用いて生きものを採集しました。ワナを用いることで陸地から安全に調査を実施できるほか、参加者の技能による調査結果への影響を最小限にすることができます。ワナは各地点で5基用い、最低でもそれぞれ30分間仕掛けることとしました。タモ網などによる生きものの採集については、安全面などを考慮して実施しませんでした。

2-4 参加団体

今回の一斉調査はなごびオの他、以下の団体にも参加いただきました。

高等学校の生物部（ユース）

名城大学附属高等学校自然科学部及び名古屋市立桜台高等学校天文部生物班に参加をお願いし、学校近くの河川敷やため池で調査していただきました。

2-5 参加者数

今回の一斉調査には延べ405人に参加していただきました。なごびオ実施地点の参加者は380人、連携した団体（ユース）2校 25人です。



調査に用いたワナ（モンドリ）

2-6 調査の流れ

(1) 参加者の公募

調査の一般参加者はチラシや市の広報誌、ホームページを通じて市民を中心に広く公募しました。また一般参加者とは別に、各地点で調査を主導するリーダー・サブリーダーをなごびオ会員・協力団体から決めました。

(2) リーダー講習会

各調査地のリーダー、サブリーダーを対象に、9月20日（金）、21日（土）の2日間でリーダー講習会を実施しました。講習会では、調査目的や調査方法を説明した後、実物を見ながら専門家が調査対象のエビ・カニ類の同定方法などを解説しました。

(3) 調査当日

リーダーは当日の朝、一般参加者が集合する前に5基あるワナの内、4基のワナを設置しました。ワナには魚肉ソーセージと、練りエサを入れ、ワナの入口とエサが水中に沈むように設置しました。

一般参加者が集合した後、調査の説明や同定資料の配布などを実施し、残り1基のワナを一般参加者とともに設置しました。

ワナは最低30分以上設置し、事前に仕掛けたワナから順番に回収しました。生きものが採集できていた場合には、水の入ったバケツに移し、その後同定と記録を行いました。アメリカザリガニに関しては匹数の記録と最大および最小個体の全長（額角先端から尾節先端）の計測を行いました。その他のエビ・カニ類に関しては種ごとに分けた後、匹数を記録しました。その他の生きものに関しても同様に種ごとに分けた後に匹数を記録しました。

同定と記録が終了した生きものは、一部標本にするため、輸送用のビニール袋に入れて、調査地を袋に油性ペンで書き込みました。最後に、参加者全員にアンケートの記入をお願いし、まとめの講評をしました。

(4) 同定と標本化

調査後はリーダーが、標本用の生体をなごや生物多様性センターに持ち込みました。生体は専門家による再同定の後、写真を撮影し、標本とするために冷凍して保管しました。



アメリカザリガニの全長



ワナ設置



採集後の記録

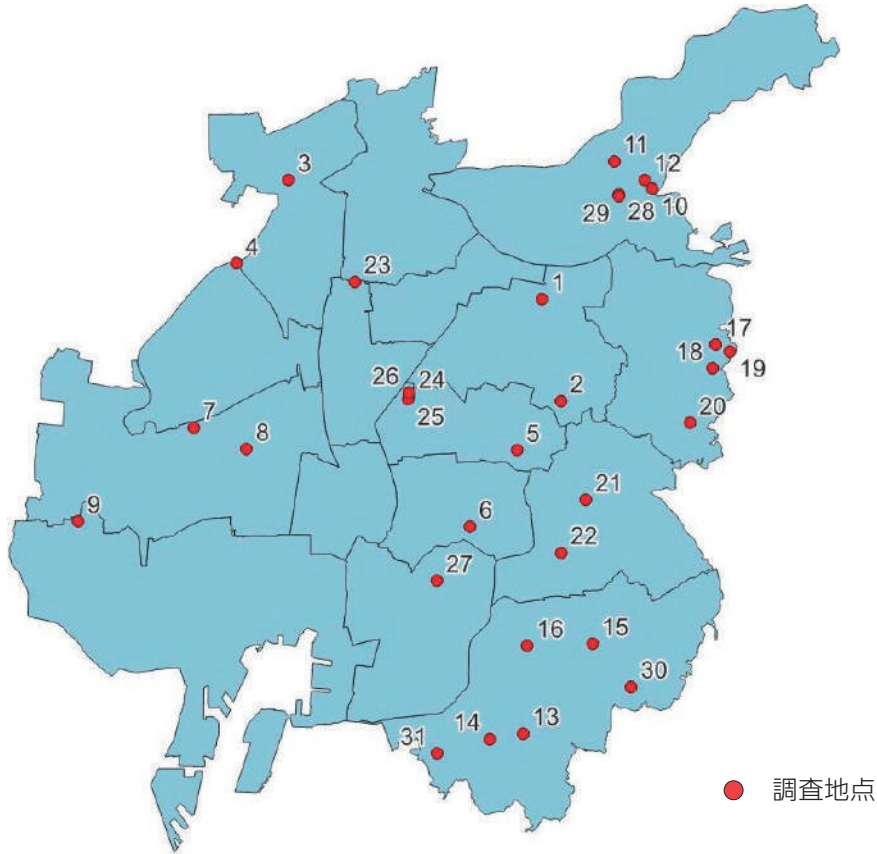


リーダー講習会

表1 調査地点一覧

	地点No.	区	調査地点	リーダー	調査日
本調査	1	千種	茶屋ヶ坂公園(茶屋ヶ坂池)	石樽 純子	10/5
	2	千種	名古屋大学(学内のため池)	伴 知幾	10/6
	3	西	庄内緑地公園(ガマ池)	山口 翔瑚	10/5
	4	中村	庄内川 (名城大学附属高等学校付近)	吉川 靖浩	10/5
	5	昭和	隼人池公園(隼人池)	水野 いづみ	10/6
	6	瑞穂	山崎川(山下橋付近)	大矢 美紀	9/29
	7	中川	荒子川(八田水の広場)	今井 洸貴	10/6
	8	中川	松葉公園(公園内の池)	熊澤 慶伯	10/6
	9	港	戸田川緑地(とだがわ生態園)	山本 佑紀	9/29
	10	守山	雨池公園(雨池)	岡村 穰	10/5
	11	守山	小幡緑地(竜巻池)	平山 希能	10/5
	12	守山	八竜緑地(新池)	細江 真澄	9/29
	13	緑	大高緑地(緑地内の湿地)	大主 順一	9/29
	14	緑	大高緑地(砦池)	大矢 芳樹	10/6
	15	緑	滝ノ水緑地(滝ノ水北池)	福井 尚子	10/5
	16	緑	新海池公園(新海池)	研谷 厚	9/29
本調査	17	名東	猪高緑地(塚ノ杵池)	高木 和彦	9/29
	18	名東	猪高緑地(すり鉢池)	萩原 正弥	10/6
	19	名東	猪高緑地(めだか池)	安井 弘	10/5
	20	名東	牧野ヶ池緑地(牧野池)	森川 晴つみ	10/5
	21	天白	植田川 (なごや生物多様性センター 付近)	西村 琉記	10/6
	22	天白	双子池	近藤 記巳子	9/29
	23	北	名城公園(名古屋城外堀)		9/22
	24	昭和	鶴舞公園(胡蝶ヶ池北部)		9/5
	25	昭和	鶴舞公園(胡蝶ヶ池南部)		9/5
	26	昭和	鶴舞公園(秋の池)		9/5
	27	南	呼続公園(曽池)		9/17
	28	守山	翠松園緑地(二ツ池 上池*)		10/10
	29	守山	翠松園緑地(二ツ池 下池*)		10/10
	30	緑	水広公園(水広下池)		10/13
	31	緑	平野池		10/17

*二ツ池は上流側の池を上池、下流側を下池と仮称した。



調査地点図

3. 調査結果と考察



3-1 調査結果

本調査22地点と補足調査9地点の計31地点で調査を行った結果(表1)、全体の38.7%にあたる12地点でアメリカザリガニを確認しました。確認したアメリカザリガニは計439匹(全長22～105mm)でした。最も多かった地点は、砦池(No.14)で133匹(全長25～90mm)、次いで、すり鉢池(No.18)の123匹(全長31～87mm)、二ツ池上池(No.28)の67匹(全長測定無)の順でした。

また、アメリカザリガニが確認された12地点の内、隼人池(No.5)、とだがわ生態園(No.9)、大高緑地内の湿地(No.13)、砦池(No.14)、滝ノ水北池(No.15)、すり鉢池(No.18)、めだか池(No.19)、牧野池(No.20)、二ツ池上池(No.28)、二ツ池下池(No.29)の10地点でアメリカザリガニが最も捕獲数の多いエビ・カニ類であると確認しました(表2)。

アメリカザリガニを含めエビ・カニ類が確認された地点は、全体の77.4%にあたる24地点でした。そのほかに採集されたエビ・カニ類は、テナガエビ(5地点)、スジエビ(13地点)、チュウゴクスジエビ(1地点)、ミゾレヌマエビ(1地点)、カワリヌマエビ類(3地点)、モクズガニ(2地点)の6種でした(表2)。

エビ・カニ類以外にワナで採集された生物は、モツゴ、カダヤシ、ブルーギルなどの魚類、ウシガエルや水生昆虫などでした(表3)。



コラム

名古屋市のサワガニは絶滅危惧種!

サワガニはきれいな水が流れる小川や川の上流に棲むカニの仲間です。レッドデータブックなごや2025では絶滅危惧IA類(CR)に選定されていて、市内の限られた場所にしか生息していません。

サワガニが生息する場所は良好な環境が残されていることが多いのですが、常に開発の危機にさらされていて、ともすると生息地ごと消えてしまいかねない状況にあります。

生活の便利さ・快適さを求めるあまり、こういった小さな命を見落とさないようにしていきたいものですね。



サワガニ(名古屋市内)

表2 アメリカザリガニとエビ・カニ類の調査結果

調査区分		本 調 査																					補足調査							各種の合計匹数		
区	千種		西	中村	昭和	瑞穂	中川		港	守山			緑				名東			天白		北	昭和	南	守山	緑						
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		30	31
調査地点	茶屋ヶ坂公園 茶屋ヶ坂池	名古屋大学 学内のため池	庄内緑地公園 ガマ池	庄内川 名城大学附属高等学校付近	隼人池公園 隼人池	山崎川 山下橋付近	荒子川 八田水の広場	松葉公園 公園内の池	戸田川緑地とだがわ生態園	雨池公園 雨池	小幡緑地 竜巻池	八竜緑地 新池	大高緑地 緑地内の湿地	大高緑地 砦池	滝ノ水緑地 滝ノ水北池	新海池公園 新海池	猪高緑地 塚ノ杵池	猪高緑地 すり鉢池	猪高緑地 めだか池	牧野ヶ池緑地 牧野池	植田川 なごや生物多様性センター付近	双子池	名城公園 名古屋城外堀	鶴舞公園 胡蝶ヶ池北部	鶴舞公園 胡蝶ヶ池南部	鶴舞公園 秋の池	呼続公園 曽池	翠松園緑地 ニツ池 上池	翠松園緑地 ニツ池 下池		水広公園 水広下池	平野池
アメリカザリガニ					1			2	6	5			32	133	20			123	46	3								67	1			439
テナガエビ				5			14	2	1														24									46
スジエビ			12					266	1	374			3	2		3	1	36						34	164	7				679		1582
チュウゴクスジエビ																										28						28
ミゾレヌマエビ				1																												1
カワリヌマエビ類						4		56										6														66
モクスガニ															1								1									2
匹 数	0	0	12	6	1	4	14	326	8	379	0	0	35	135	21	3	1	165	46	3	0	0	25	34	164	35	0	67	1	679	0	2164
種 数	0	0	1	2	1	1	1	4	3	2	0	0	2	2	2	1	1	3	1	1	0	0	2	1	1	2	0	1	1	1	0	—

※赤色の数字：鶴舞公園 胡蝶ヶ池北部(No.24)、鶴舞公園 胡蝶ヶ池南部(No.25)、鶴舞公園 秋の池(No.26) ではスジエビとチュウゴクスジエビが現地で同定できなかったため、持ち帰ったサンプル5匹から捕獲数を推定した。

コラム

アメリカザリガニとエビ・カニ類クイズ!

下の画像①～⑥は何の写真だろう？ ヒントはこの報告書のどこかにあるよ。探してみてね!

①



②



③



④



⑤



⑥



答えはp35で確認!

表3 アメリカザリガニとエビ・カニ類以外の調査結果

調査区分		本 調 査																					補足調査										
区		千種	西	中村	昭和	瑞穂	中川	港	守山			緑				名東			天白		北	昭和	南	守山	緑								
No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
調査地点		茶屋ヶ坂公園 茶屋ヶ坂池	名古屋大学 学内のため池	庄内緑地公園 ガマ池	庄内川 名城大学附属高等学校校付近	隼人池公園 隼人池	山崎川 山下橋付近	荒子川 八田水の広場	松葉公園 公園内の池	戸田川緑地とだがわ生態園	雨池公園 雨池	小幡緑地 竜巻池	八竜緑地 新池	大高緑地 緑地内の湿地	大高緑地 砦池	滝ノ水緑地 滝ノ水北池	新海池公園 新海池	猪高緑地 塚ノ杵池	猪高緑地 すり鉢池	猪高緑地 めだか池	牧野ヶ池緑地 牧野池	植田川 なごや生物多様性センター付近	双子池	名城公園 名古屋城外堀	鶴舞公園 胡蝶ヶ池北部	鶴舞公園 胡蝶ヶ池南部	鶴舞公園 秋の池	呼続公園 曽池	翠松園緑地 ニツ池 上池	翠松園緑地 ニツ池 下池	水広公園 水広下池	平野池	
	ウシガエル(成体・幼生)						7								1				1														
	コイ(飼育型)																										5						
	タイリクバラタナゴ								7																								
	オイカワ							3														6											
	モツゴ			26		16			277	126	71						414						57	5	572	391	592				187	233	
	タモロコ																14							7								55	
	ドジョウ						1														1												
	カダヤシ					2	14		84	24		124				300	220		5	53	64		90			24	58	42					
	ミナミメダカ		108											11																			
ブルーギル	6				4			3	2			12				2	11					3	1		2	5				3			
ナイルティラピア							2																										
ヨシノボリ類							2									2														4	1		
ゴクラクハゼ							1																										
ギンヤンマ(幼虫)																														1			
チビミズムシ																														1			
マツモムシ							1																										
コマツモムシ																														1			
巻貝類																														1			
種 数		1	1	1	0	3	4	4	4	3	1	1	1	1	2	1	4	2	2	2	0	2	2	3	2	3	4	0	4	3	3	0	

※青色の数字は概数。
※種が同定できなかったヨシノボリ属については、ヨシノボリ類とした。

3-2 調査地点別の特徴

調査地点別の概要と調査結果です。

調査結果を示したグラフには比較対象として2014年に実施した“なごや生きものの一斉調査2014～甲殻類調査～”のデータを載せていますが、今回とは調査方法などが異なる点に注意してください。

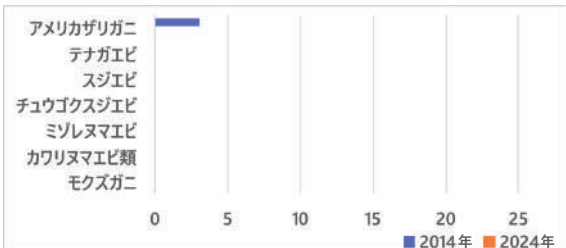
また、各調査地点にて目視等で確認された生きものについては一斉調査の結果には計上されませんが、「調査外で確認」として参考に記載しています。

1. 茶屋ヶ坂公園 茶屋ヶ坂池（千種区）

エビ・カニ類調査結果

調査地点は茶屋ヶ坂公園内にある池です。池の周りには自然が残されており、木々が生き茂っている環境です。2013年に池干しが行われています。

2014年の調査ではアメリカザリガニが確認されましたが、2024年の調査ではエビ・カニ類は採集されず、ブルーギルが確認されたのみでした。調査外ではアメリカザリガニとカワリヌマエビ類が確認されています。



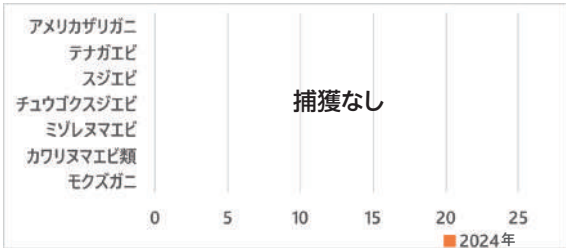
エビ・カニ類以外		調査外で確認
ブルーギル	6匹	アメリカザリガニ カワリヌマエビ類

2. 名古屋大学 学内のため池（千種区）

エビ・カニ類調査結果

2024年より新たに追加した地点です。調査は東山キャンパス内、農学部の近くにあるため池で行いました。周囲は人工的な環境で、池の四方はコンクリートで囲まれています。池の中には水草が茂り、水面のほとんどが抽水植物で覆われています。

ミナミメダカが108匹と多数採集されましたが、エビ・カニ類は確認されませんでした。



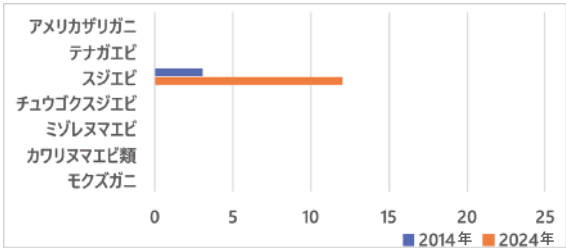
エビ・カニ類以外	
ミナミメダカ	108匹

3. 庄内緑地公園 ガマ池（西区）

エビ・カニ類調査結果

公園内にある人工池で、2014年にも調査を行った地点です。2019年に池干しを行っており、その際にはスジエビ、ヌマエビ類、アメリカザリガニが確認されています。

2024年調査では、エビ・カニ類はスジエビが12匹、その他の水生生物はモツゴが確認されました。



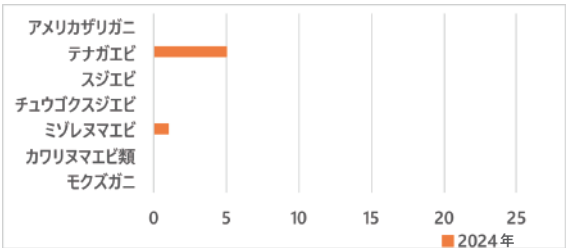
エビ・カニ類以外		調査外で確認
モツゴ	26匹	ミシシippアカミミガメ

4. 庄内川 名城大学附属高等学校付近（中村区）

エビ・カニ類調査結果

2024年より追加した地点です。市内を広く流れる庄内川のうち、調査は中村区の新富町付近で行いました。海水の遡上はありませんが、潮位によって押し戻された水で水位が変化する環境です。

テナガエビが5匹、ミゾレヌマエビが1匹確認されました。また、クロベンケイガニが目視で確認されています。



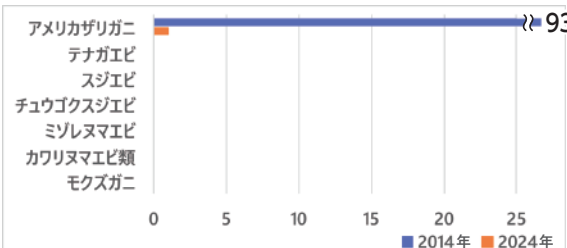
調査外で確認	
クロベンケイガニ	

5. 隼人池公園 隼人池（昭和区）

エビ・カニ類調査結果

公園内にある池で、2009年と2023年に池干しが行われています。2014年にも調査を実施しており、その際にはアメリカザリガニが93匹と多数捕獲されています。

2024年調査では、エビ・カニ類はアメリカザリガニが1匹、その他の水生生物はモツゴ、カダヤシ、ブルーギルが確認されました。



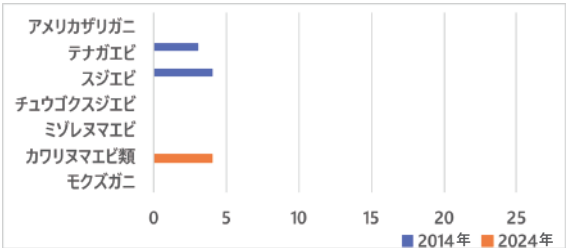
エビ・カニ類以外	
モツゴ	16匹
カダヤシ	2匹
ブルーギル	4匹

6. 山崎川 山下橋付近（瑞穂区）

エビ・カニ類調査結果

2014年調査は瑞穂運動場近傍の親水公園で行われましたが、2024年の調査では下流域にあたる山下橋付近で行いました。現状では近年に両岸がコンクリート化され、また工事も続いている事から砂地が多くなっています。

2024年の調査では、エビ・カニ類ではカワリヌマエビ類が4匹確認されたのに加え、その他の水生生物も多種確認されました。



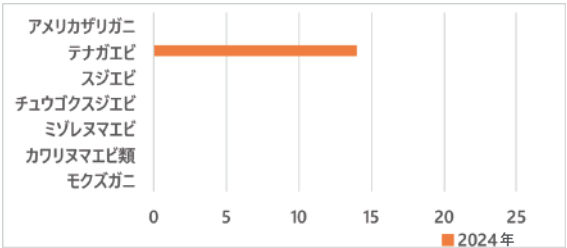
エビ・カニ類以外	
ウシガエル	7匹
ドジョウ	1匹
カダヤシ	14匹
マツモムシ	
ヤゴ類	
カゲロウ類	

7. 荒子川 八田水の広場（中川区）

エビ・カニ類調査結果

2024年より新たに追加した地点です。荒子川は河口部を閉め切ってあるため、海水の遡上はありません。調査地点はコンクリートで整備された親水公園になっており、水深は30cmほどです。また、コウガイセキショウモなどの水草が繁茂しています。

エビ・カニ類はテナガエビが14匹確認され、アメリカザリガニは採集されませんでした。その他の水生生物が多種確認されました。



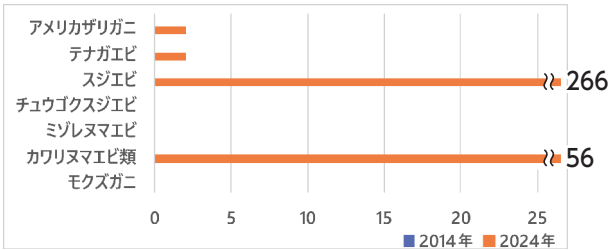
エビ・カニ類以外	
オイカワ	3匹
ナイルティラピア	2匹
ヨシノボリ類	2匹
ゴクラクハゼ	1匹

8. 松葉公園 公園内の池（中川区）

エビ・カニ類調査結果

公園内の修景池です。池岸は石組みなどによって護岸されていますが、抽水植物が繁茂する箇所や周囲の草木がせり出している箇所があります。池岸付近の水深は40cm程度です。また池の水源となる小さな水たまりも接続しています。

2014年の調査ではエビ・カニ類は確認されませんでした。2024年調査では、アメリカザリガニを含む4種類が確認されました。特にスジエビは266匹と多数採集されました。



エビ・カニ類以外

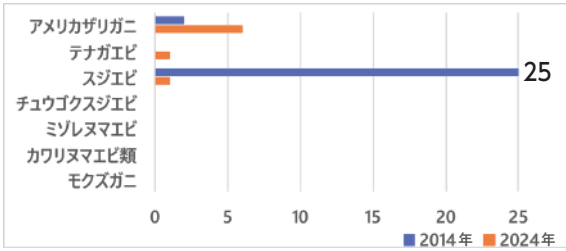
タイリクバラタナゴ 7匹
モツゴ 277匹
カダヤシ 84匹
ブルーギル 3匹

9. 戸田川緑地 とだがわ生態園（港区）

エビ・カニ類調査結果

自然観察ができるように整備された池です。2018年に外来種除去を目的とした池干しが行われています。2014年の調査では、アメリカザリガニとスジエビが確認されていました。

2024年調査では、アメリカザリガニ6匹とスジエビ1匹に加え、テナガエビ1匹も確認されました。



エビ・カニ類以外

モツゴ 126匹
カダヤシ 24匹
ブルーギル 2匹

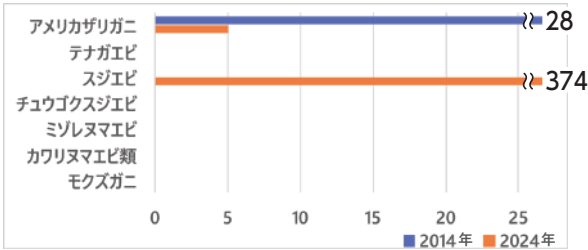
10. 雨池公園 雨池（守山区）

エビ・カニ類調査結果

池の周囲には雑木林が残されていますが、一部がコンクリートで護岸されており、釣り池としても親しまれています。

また2010年に池干しが行われています。2014年調査ではアメリカザリガニが確認されていました。

2024年調査では、アメリカザリガニ5匹に加えて、スジエビが374匹と多数確認されました。



エビ・カニ類以外

モツゴ 71匹

11. 小幡緑地 竜巻池（守山区）

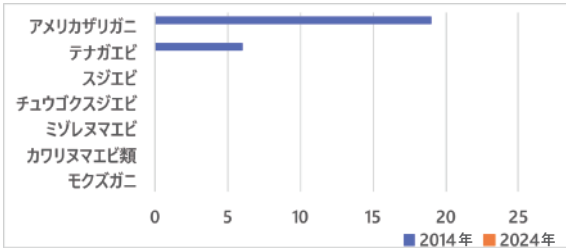
エビ・カニ類調査結果

緑地内にある池で、池の周囲には樹林が残っており、岸際も自然のままの環境です。調査日の直近まで水位が大きく失われた期間がありデータが比較できるかは分かりませんが、2014年調査ではアメリカザリガニとテナガエビが確認されていました。

2024年調査では、カダヤシが多数採集されましたが、エビ・カニ類は確認されませんでした。



(WG撮影)



エビ・カニ類以外

カダヤシ 124匹

12. 八竜緑地 新池（守山区）

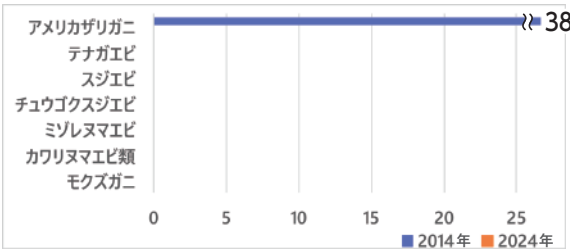
エビ・カニ類調査結果

緑地内にある池で、池の周囲は雑木林に囲まれています。市内でも有数の自然豊かな環境と良好な水質を誇る地点です。2014年調査ではアメリカザリガニが確認されていました。

2024年調査ではブルーギルが12匹採集されましたが、エビ・カニ類は確認されませんでした。



(WG撮影)



エビ・カニ類以外

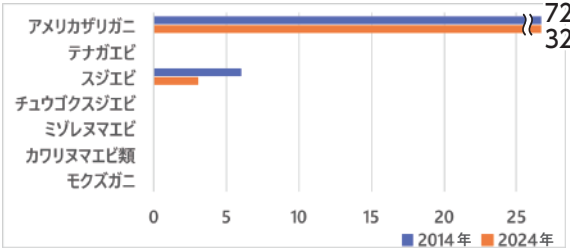
ブルーギル 12匹

13. 大高緑地 緑地内の湿地（緑区）

エビ・カニ類調査結果

緑地の中にある小さな湿地です。周囲は樹木が生い茂っており、湿地内には落ち葉が積もっています。2014年調査ではアメリカザリガニとスジエビが確認されていました。

2024年調査では、アメリカザリガニ32匹とスジエビ3匹、その他の水生生物ではミナミメダカが確認されました。



エビ・カニ類以外

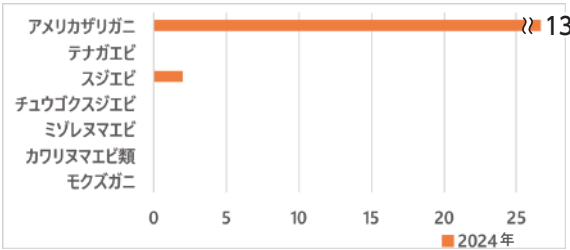
ミナミメダカ 11匹

14. 大高緑地 砦池（緑区）

エビ・カニ類調査結果

緑地内にある池で、周囲には自然が残っています。水深が浅く、泥でにごっており、地元の子どもには「ザリガニがよく採れる池」として親しまれているようです。2024年より新たに追加した地点です。

アメリカザリガニが133匹と、全地点で最も多く確認されました。また、スジエビ、ウシガエル（幼生）、カダヤシも確認されました。



エビ・カニ類以外

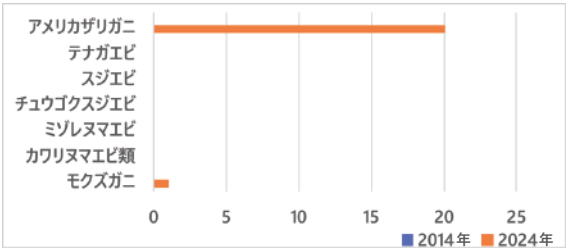
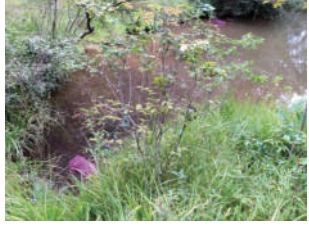
ウシガエル(幼生) 1匹
カダヤシ 300匹以上

15. 滝ノ水緑地 滝ノ水北池（緑区）

エビ・カニ類調査結果

住宅地の中に残る小さな緑地にある池で、護岸際に遊歩道が整備されています。水深は浅く、2018年に池干しが行われています。2014年調査ではエビ・カニ類はワナにかかっていません。

2024年調査では、エビ・カニ類はアメリカザリガニ20匹とモクズガニ1匹が、その他の水生生物はカダヤシが確認されました。



エビ・カニ類以外

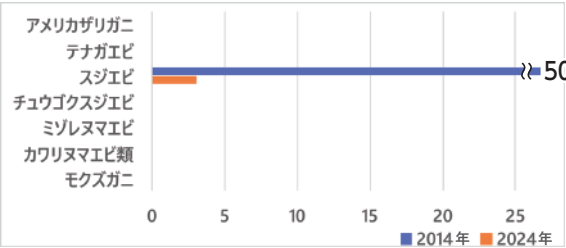
カダヤシ 約220匹

16. 新海池公園 新海池（緑区）

エビ・カニ類調査結果

周囲は新海池公園として整備されており、池の半周ほどはコンクリート護岸になっています。市内にあるため池の中では比較的大きい池で、水深は最深部で約3.0mと深くなっています。

エビ・カニ類は、2014年調査と同じくスジエビが確認されました。また、モツゴ、タモロコ、ブルーギル、ヨシノボリ類も採集されました。



エビ・カニ類以外

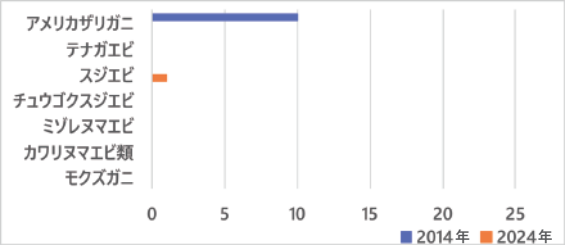
モツゴ	414匹
タモロコ	14匹
ブルーギル	2匹
ヨシノボリ類	2匹

17. 猪高緑地 塚ノ杵池（名東区）

エビ・カニ類調査結果

猪高緑地内にある大きな池で、池の周囲には樹林が残っています。なだらかな傾斜になっている浅瀬には様々な水生植物が自生しており、市内でも貴重な環境です。

2014年調査ではアメリカザリガニが確認されていましたが、2024年調査ではエビ・カニ類はスジエビ1匹のみが確認されました。



エビ・カニ類以外

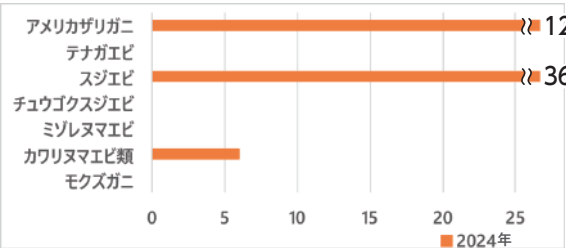
カダヤシ	5匹
ブルーギル	11匹

18. 猪高緑地 すり鉢池（名東区）

エビ・カニ類調査結果

2024年より新たに追加した地点です。猪高緑地内にある池ですが、池の周囲は公園として整備され、水際に近寄りやすい環境です。2021年に池干しが行われた際にはアメリカザリガニ、スジエビ、カワリヌマエビ類が確認されています。

今回の調査でも、エビ・カニ類は池干し時と同じ3種が確認されました。また、ウシガエル、カダヤシも確認されました。



エビ・カニ類以外

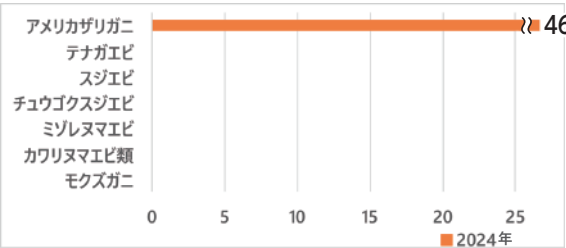
ウシガエル	1匹
カダヤシ	53匹

19. 猪高緑地 めだか池（名東区）

エビ・カニ類調査結果

猪高緑地内にある小さな池です。水深は浅く、池底は泥質や落葉などによって柔らかな状態です。池岸は下層植生によって囲われ、エコトーンが形成されています。2024年より新たに追加した地点です。

調査の結果、エビ・カニ類はアメリカザリガニが46匹確認されました。その他の水生生物ではカダヤシとドジョウが確認されました。



エビ・カニ類以外

カダヤシ	64匹
ドジョウ	1匹

20. 牧野ヶ池緑地 牧野池（名東区）

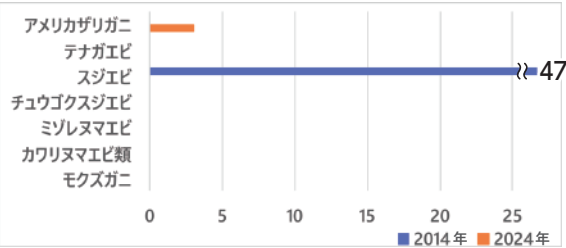
エビ・カニ類調査結果

市内で最も大きなため池です。岸際は市街地に面している箇所もありますが、樹林に囲まれた自然度の高い環境が残っています。2014年調査ではスジエビが476匹と多数確認されました。

2024年調査では、アメリカザリガニ3匹が確認されました。なお、調査外ではスジエビが確認されています。



(WG撮影)



調査外で確認

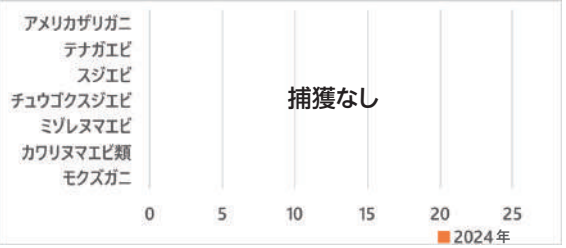
スジエビ

21. 植田川 なごや生物多様性センター付近（天白区）

エビ・カニ類調査結果

2024年より新たに追加した地点です。植田川は名古屋市内では名東区と天白区を流れる河川で、兩岸ともコンクリートで整備されています。調査地点は天白川との合流点より500mほど上流に位置します。

今回の調査で採集されたのはオイカワ、カダヤシと魚類のみでしたが、調査外ではカワリヌマエビ類が確認されています。



捕獲なし

エビ・カニ類以外

オイカワ	6匹
カダヤシ	90匹

調査外で確認

カワリヌマエビ類

22. 双子池（天白区）

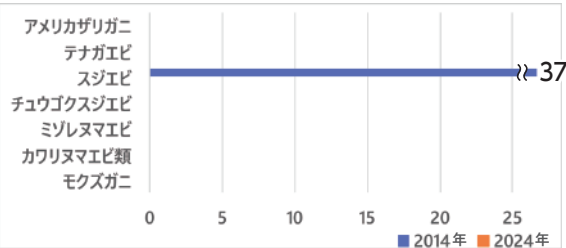
エビ・カニ類調査結果

相生山緑地の北側に隣接する池です。全周をコンクリート護岸で整備されており、夏は園芸スイレンやヒシといった水草が水面に繁茂しています。2014年調査ではスジエビが372匹と多数確認されました。

2024年調査ではエビ・カニ類は採集されませんでした。



(WG撮影)



エビ・カニ類以外

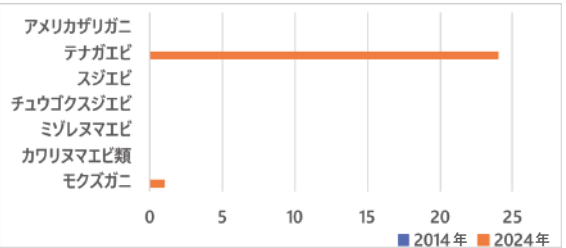
モツゴ	57匹
ブルーギル	3匹

23. 名城公園 名古屋城外堀（北区）補足

エビ・カニ類調査結果

名古屋城の北側に残る水堀です。お堀は重要文化財であり、貴重な水草の生息場所です。堀川とつながっているため、名古屋港ともつながっていることになります。

2014年の調査ではエビ・カニ類は確認されませんでした。2024年の調査では、テナガエビ24匹とモクズガニ1匹が確認されました。



エビ・カニ類以外

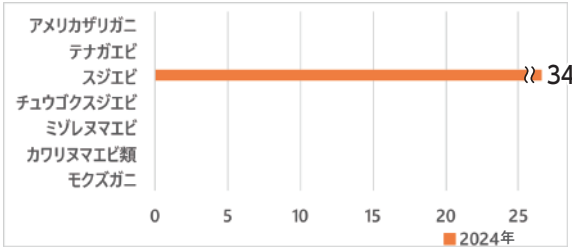
モツゴ	5匹
タモロコ	7匹
ブルーギル	1匹

24. 鶴舞公園 胡蝶ヶ池北部 (昭和区) 補足

エビ・カニ類調査結果

2024 年より新たに追加した地点です。名古屋市内で最初に設置された公園、鶴舞公園の中にある池です。池の北部と南部で環境が異なるため、2 地点で調査を行いました。北部はハスが繁茂して水面を埋め尽くしており、夏の開花期はとてもきれいです。

エビ・カニ類はスジエビが 34 匹、その他の水生生物ではモツゴが 572 匹と多数、加えて、カダヤシが 24 匹確認されました。



エビ・カニ類以外

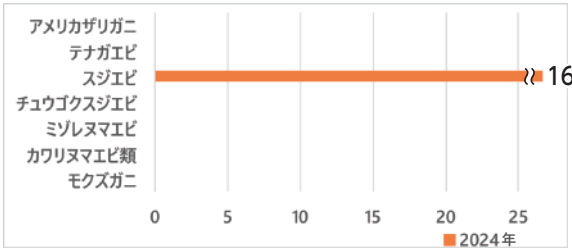
モツゴ 572 匹
カダヤシ 24 匹

25. 鶴舞公園 胡蝶ヶ池南部 (昭和区) 補足

エビ・カニ類調査結果

鶴舞公園の中にある池です。調査は池の北部と南部、2 地点で行いました。南部は日本庭園様に作られており、北部に比べると水草が少なく明るい環境です。2024 年より新たに追加した地点です。

エビ・カニ類はスジエビが 164 匹、その他の水生生物はモツゴ、カダヤシ、ブルーギルが確認されました。



エビ・カニ類以外

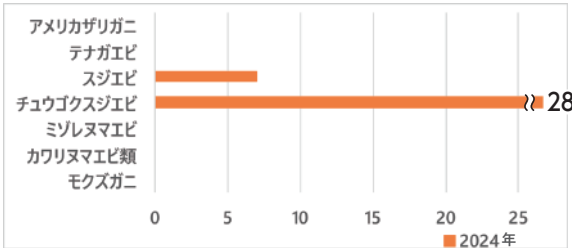
モツゴ 391 匹
カダヤシ 58 匹
ブルーギル 2 匹

26. 鶴舞公園 秋の池 (昭和区) 補足

エビ・カニ類調査結果

鶴舞公園内の修景池であり、2024 年より新たに追加した地点です。池周辺は庭園に囲まれており、池内にもミズカンナなどの抽水性園芸植物が植えられています。また池岸は石組みで護岸されています。

エビ・カニ類の調査では、スジエビとチュウゴクスジエビが確認されました。今回の一斉調査でチュウゴクスジエビが採集されたのは、全地点で秋の池のみでした。



エビ・カニ類以外

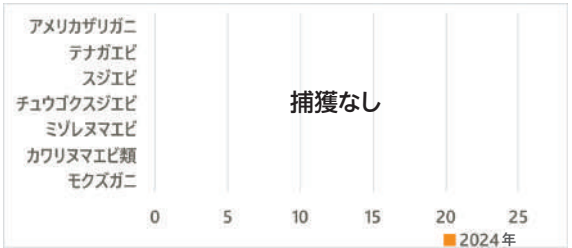
コイ (飼育型) 5 匹
モツゴ 592 匹
カダヤシ 42 匹
ブルーギル 5 匹

27. 呼続公園 曾池 (南区) 補足

エビ・カニ類調査結果

呼続公園内にある修景池です。ほぼ全周が垂直護岸で水深は 1m 程度、水面を覆い尽くす勢いでスイレンとホテイアオイが繁茂しており、池の底には枯れた植物が多く積もっている環境です。2024 年より新たに追加した地点です。

今回の調査では生きものは採集されませんでしたが、調査外ではアメリカザリガニとチュウゴクスジエビが確認されています。



調査外で確認

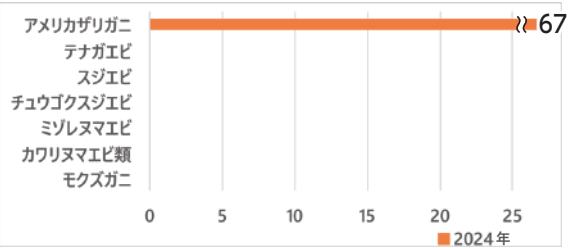
ブルーギル
ヒメタイコウチ
アメリカザリガニ
チュウゴクスジエビ

28. 翠松園緑地 ニツ池 上池 (守山区) 補足

エビ・カニ類調査結果

2024 年より新たに追加した地点です。名前のとおり二つの池が隣接しており、上流側を上池としました。周辺は風致地区に指定されており、自然が残っています。2024 年に工事のために池干しが行われ、水位が回復した後の調査となりました。

工事前にはスジエビやカワリヌマエビ類が見られましたが、今回のエビ・カニ類調査では、アメリカザリガニのみが 67 匹確認されました。その他にも水生昆虫や巻き貝が確認されました。



エビ・カニ類以外

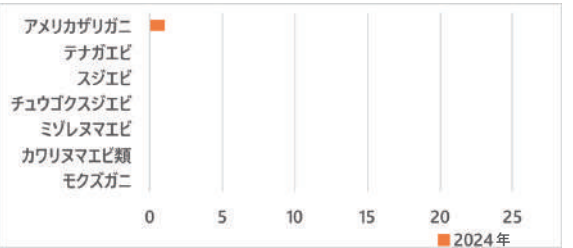
ギンヤンマ (幼虫) 1 匹
チビミズムシ 1 匹
コマツモムシ 1 匹
巻貝類 1 匹

29. 翠松園緑地 ニツ池 下池 (守山区) 補足

エビ・カニ類調査結果

2024 年より新たに追加した地点です。隣接する二つの池のうち、下流側を下池としました。上流の上池が工事の関係で 2024 年に池干しを実施しており、施工の影響が下池にも及んでいた可能性が考えられる中での調査となりました。

一斉調査で採集されたエビ・カニ類はアメリカザリガニ 1 匹のみでしたが、調査外ではテナガエビ、スジエビ、カワリヌマエビ類も確認され、工事前と大きな変化はありませんでした。



エビ・カニ類以外

モツゴ 187 匹
ブルーギル 3 匹
ヨシノボリ類 4 匹

調査外で確認

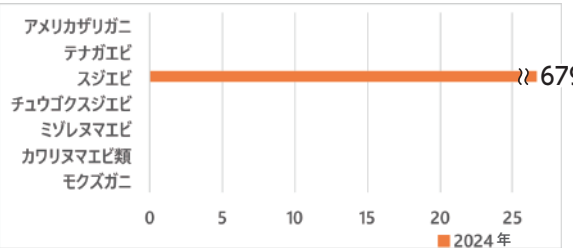
テナガエビ
スジエビ
カワリヌマエビ類

30. 水広公園 水広下池 (緑区) 補足

エビ・カニ類調査結果

2024 年より新たに追加した地点です。水広公園内にあるため池です。野鳥保護区であり自然を残しつつ、釣りを楽しめる池としても親しまれています。エビ・カニ類は、スジエビが確認されました。また、調査外でアメリカザリガニ、カワリヌマエビ類、モクズガニが確認されています。

今回の一斉調査のあと、2024 年冬に工事のために池干しが行われています。本調査結果は池干し前の環境を知るための貴重なデータになったと言えます。



エビ・カニ類以外

モツゴ 233 匹
タモロコ 55 匹
ヨシノボリ類 1 匹

調査外で確認

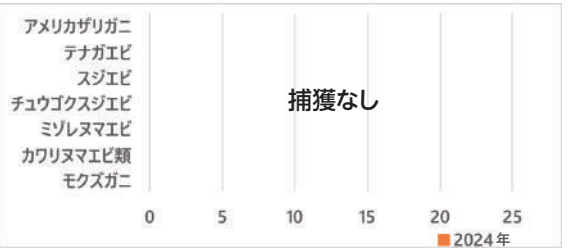
アメリカザリガニ
カワリヌマエビ類
モクズガニ

31. 平野池 (緑区) 補足

エビ・カニ類調査結果

2024 年より新たに追加した地点です。火上山特別緑地保全地区に隣接した風致地区内にあるため池です。近年はホテイアオイが水面を覆い尽くすほど繁茂していました。今回の一斉調査では生きものは採集されませんでしたが、調査外ではアメリカザリガニが確認されています。

平野池についても、今回の一斉調査のあと、2024 年冬の工事のために水が抜かれています。



調査外で確認

アメリカザリガニ

3-3 考察

31地点でアメリカザリガニを中心としたエビ・カニ類の調査を行いました。多くの地点で確認できると思われたアメリカザリガニが、調査地点の38.7%と予想より少ない結果となりました。その原因として、アメリカザリガニが少ない場所にワナを設置してしまったことや、ワナの設置時に仕掛けが底につかず、水中に吊るされてしまうなど、仕掛け方が上手くいかなかったと考えられます。これらのことについては、ため池や河川の水量の関係や、調査地点の足場などの影響、または事前に打ち合わせた内容が、上手く伝わらない状況があったと考えられます。改善点として、調査する生物の生態的特徴や調査道具などの扱い方を詳しく説明するほか、現場用のマニュアルを作成することで、改善できると考えられます。

アメリカザリガニが採集された場所では、アメリカザリガニがエビ・カニ類の中で最も多く採集されているところが多く、他のエビ・カニ類が少なく感じられました。アメリカザリガニの侵入にともなって、競争が生じたり捕食されたりすることにより、在来種が減少している可能性が考えられます。実際に、アメリカザリガニが生息するため池などでは生態系に影響を与え、自然環境が悪化している例があります(中嶋・斉藤, 2021)。このため、アメリカザリガニの放流や遺棄が行われないようにしなければなりません。

ため池などで肉食性魚類(オオクチバスなど)や肉食性の強い雑食性魚類(コイなど)の大量駆除のみを行うとアメリカザリガニが増加する傾向があります(寺本, 2015; 環境省, 2022)。増加したアメリカザリガニを抑制するためには、対象とする水域の生物相全体を考えながら、外来種の総合的な防除を進めて行くことが重要であるといっています(環境省, 2022)。

また、近年新たな外来種としてチュウゴクスジエビ(今井ほか, 2020)やカワリヌマエビ類(岡村ほか, 2011)が市内で確認されています。チュウゴクスジエビについては、過去に名古屋市内における4地点(No.3 ガマ池、No.24・25 胡蝶ヶ池、No.26 秋の池、No.27 曽池)での生息が確認されていますが(今井ほか, 2020)、今回の調査ではこのうちの1地点(No.26 秋の池)のみで確認されました。チュウゴクスジエビやカワリヌマエビ類は釣りえさや観賞用に持ち込まれたもので(丹羽, 2010)、その扱いには注意が必要です。

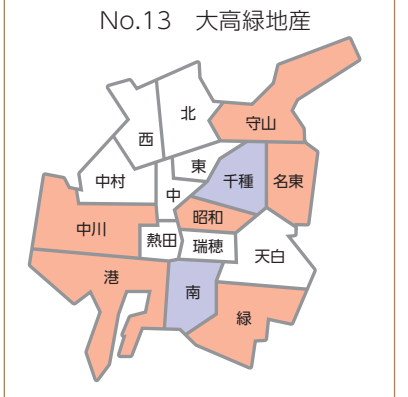
今後も名古屋市のアメリカザリガニなどの外来エビ・カニ類の生息、増加などの状況を注視していく必要があります。

3-4 各種の解説

調査対象のエビ・カニ類は硬い殻を持ち、歩くための脚が10本ある、十脚目(エビ目)と呼ばれる生きものたちです(ヤドカリも同じグループに含まれます)。種類によって泳ぐものや横歩きするものなど、特徴的な動きをするのも魅力の一つです。今回の調査ではアメリカザリガニの他に、テナガエビの仲間(テナガエビ・スジエビ・チュウゴクスジエビ)、ヌマエビの仲間(ミゾレヌマエビ・カワリヌマエビ類)、カニの仲間(モクズガニ)の計7種類が確認されました。

◆分布図の説明

生息が確認された区 調査内で確認： 調査外で確認：

1 アメリカザリガニ アメリカザリガニ科 <i>Procambarus clarkii</i> (Girard, 1852) 体長約12cm。北アメリカ原産の外来種で、日本の侵略的外来種ワースト100にも選定され(村上・鷲谷, 2002)、現在では北海道から沖縄まで分布域を広げています(豊田ほか, 2019)。ハサミ脚は3対(計6本)あり、強大なハサミ脚のほかに、小さなハサミ脚が2対あります。	 No.13 大高緑地産 
--	--

コラム

エビなのにエビじゃない?!

春、田んぼに水が張られて、5月頃になると何処からともなく現れる甲殻類に、背中に甲羅を持たず、仰向けになってエラのような脚を波打たせるように泳ぐホウネンエビ(無甲目)や、背中に兜のような甲羅を持つカブトエビ類(背甲目)、二枚貝のような殻を持つカイエビ類(双殻目)があります。いずれも乾燥や低温に強い耐久卵を産み、翌年以降、田んぼに水が張られて生息環境が整うまで、卵のまま休眠することでも知られています。

実は、甲殻類でエビという名前が付いていますが、テナガエビやアメリカザリガニ、モクズガニといった脚が10本ある十脚目(エビ目)のエビやカニの仲間ではなく、鰓脚類というミジンコの仲間です。



ホウネンエビ



カブトエビ



カイエビ

コラム

そのアメリカザリガニ、逃がさないで!

アメリカザリガニは、たくさんの生きものを食べたり、水草を食べたり切ったりして生きものが卵を産んだり隠れたりする場所をなくしたり、田んぼの畔に穴をほって水漏れさせたりする、困った生きものです。

2023年6月には、アカミミガメとともに条件付特定外来生物に指定され、野外への放流や生きた状態での販売が禁止されています。

現在は、野外で捕まえて、その場にすぐに放すことはできませんし、持って帰って家で飼うこともできます。

ただし、飼っていたアメリカザリガニを逃すことはもちろん、不注意(蓋のし忘れ、水換えなど)で野外へ逃げ出してしまった場合にも、罰金・罰則の対象となります。

でも、「罰金や罰則があるから」ではなく、どんな生きものもそうですが、一度飼い始めた生きものは、寿命が尽きるまで大切に飼いましょう。



条件付特定外来生物アメリカザリガニについての詳細は下記ページをご覧ください。
環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室. 2023. 日本の外来種対策 アメリカザリガニ.
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/amezari.html>



2

テナガエビ

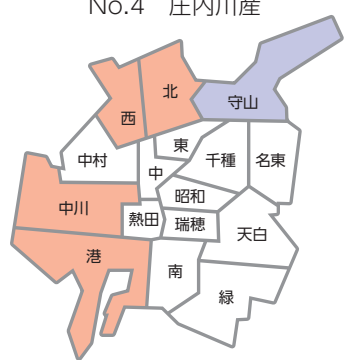
テナガエビ科

Macrobrachium nipponense (De Haan, 1849)

体長約9cm。本州から九州にかけて生息し、国外では韓国、台湾、中国に分布します(林, 2000)。両側回遊型や陸封型(淡水域のみで一生を過ごす)など幅広い水域に適応する多様な繁殖生態を持つ個体群が知られていますが(益子, 2011)、名古屋市内の個体の詳しい繁殖生態はわかっていません。



No.4 庄内川産



5

ミゾレヌマエビ

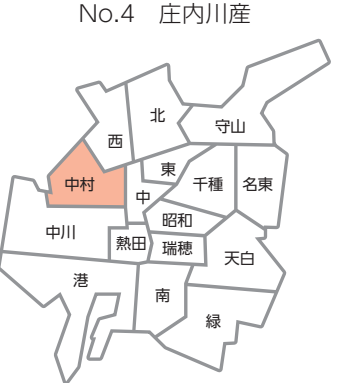
ヌマエビ科

Caridina leucosticta Stimpson, 1860

体長は3cm前後ですが、オスよりメスの方が大きくなります。本州中部から四国、九州、南西諸島、韓国に分布しています(林, 2007)。両側回遊型と呼ばれる生活をしており、ふ化した幼生は川を下り、河口から沿岸域で成長、稚エビに変態後川を上り成長・成熟します(中田ほか, 2011)名古屋市では準絶滅危惧 (NT) に評価されています(名古屋市, 2025)。



No.4 庄内川産



3

スジエビ

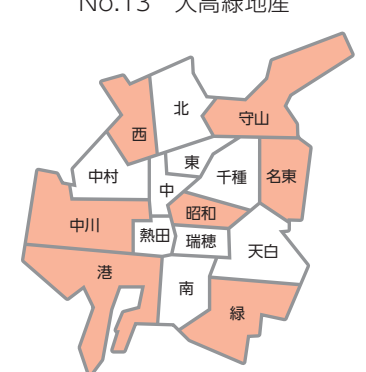
テナガエビ科

Palaemon paucidens De Haan, 1844

体長約6cm。北海道から奄美大島、国外からは朝鮮半島、中国、ロシア極東に分布します(豊田ほか, 2019)。遺伝的に分化した複数の種が存在するとされ、北海道から九州にかけての広範囲には、河川および多様な内水面に分布するAタイプと、河川のみ分布し両側回遊型であるBタイプの2つの集団が報告されています(張ほか, 2018a)。現状では形態によるタイプ判別が可能ではないとされているため(張ほか, 2018b)、今回の調査では区別していません。



No.13 大高緑地産



6

カワリヌマエビ類

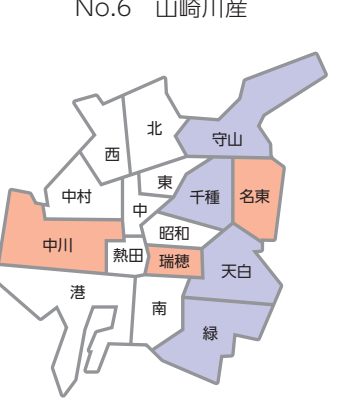
ヌマエビ科

Neocaridina spp.

体長約3cm。在来のミナミヌマエビに酷似し、外来種と考えられるカワリヌマエビ類は近年全国各地に分布域を広げ問題となっています(西野, 2017)。名古屋市内でも2000年頃から河川や水路、ため池などで確認され、その後分布域を広げています(岡村ほか, 2012)。現時点では外見から明確に種を見分けることはできていません(Kakui and Komai, 2022)。淡水域のみで一生を過ごします。



No.6 山崎川産



4

チュウゴクスジエビ

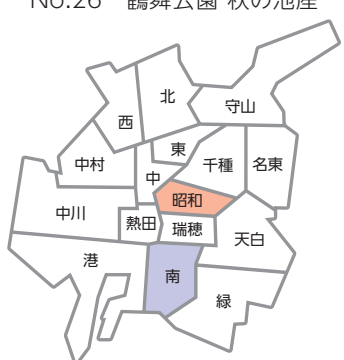
テナガエビ科

Palaemon sinensis (Sollaud, 1911)

体長約4cm。中国、ロシア極東に分布していますが、2010年に静岡県で発見され、その後本州、四国や九州の各地で記録されており(豊田ほか, 2019)、近年新たな外来種として問題になっています。2018年以降名古屋市内でも確認されています(今井ほか, 2020)。淡水域のみで一生を過ごします。



No.26 鶴舞公園 秋の池産



7

モクズガニ
Eriocheir japonica (De Haan, 1835)

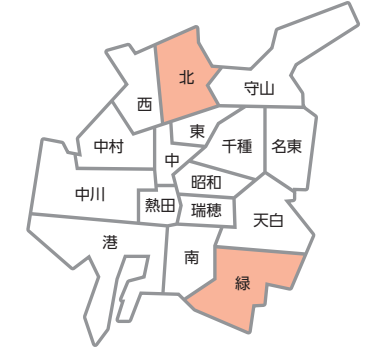
モクズガニ科

甲幅約6cm。北海道から南西諸島、サハリンを含むロシア極東域、中国、韓国に分布します(豊田ほか, 2019)。

幼生は海水域で成長し、メガロパ幼生から稚ガニに成長する過程で川を遡上します。その後、河川の上流から下流域で成長し、交尾や産卵のために再び汽水域や海水域へ移動します(小林, 1999)。名古屋市では準絶滅危惧(NT)に評価されています(名古屋市, 2025)。



No.23 名古屋城外堀産



コラム

アメリカザリガニの持ち方・捕まえ方

大きなハサミを持つアメリカザリガニは子ども達に人気の生きものですが、はさまれるととっても痛い、小さな子どもにとってはこわい生きものでもあります。

では、どうしたら、はさまれずに安全に持つことが出来るでしょうか？



アメリカザリガニは、手を近づけると大きくハサミを振り上げますが、ハサミは背中より後ろには届きません。体の甲羅(頭胸甲)はトゲもなく、硬くてスベスベしていて、尻尾のように動くこともないので、安全に持つことが出来ます。

振り上げたハサミがこわい時には、割りばしなどをはさませてから持つと、持ちやすくなります。



アメリカザリガニは驚くと、尻尾を使って跳ねるように後ずさりするので、水路などで網を使って捕まえる時には、水の流れの下流側でアメリカザリガニの後ろに網を置きます。その後、頭側から棒や足で追ってやると、自分で網に入ってきます。

生きものの一斉調査ではワナを使っていますが、モンドリやカニ籠などの道具(おさかなキラーや自作のペットボトルのワナも含む)は愛知県の漁業調整規則で使用が禁止されているため、使用には許可が必要です。気を付けましょう。

遊漁に関するルールについての詳細は下記ページをご覧ください。
 愛知県, 2023. 水産業 遊漁に関するルール.
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisan/0000003320.html>



コラム

モクズガニ、大人と子どもは別のカニみたい!

モクズガニは普段は川などの淡水域に生息していますが、成体(親)は秋になると繁殖・産卵のために海へ降り、海で産まれた幼生は稚ガニになって川を遡上していきます。

ハサミにフサフサとした毛が生えたカニで、藻屑が付いているように見えるので、この名前が付いていますが、幼体(子ども)は成体のようにハサミにフサフサとは毛が生えていないので、まるで違うカニのように見えます。

サワガニと間違えられることもありますが、モクズガニは甲羅の形や脚の長さで見分けることが出来ます。



成体(オス)



幼体

また、ハサミの毛は普段は茶色ですが、脱皮すると生え変わり、脱皮直後は真っ白な毛房が現れます。



成体(オス)



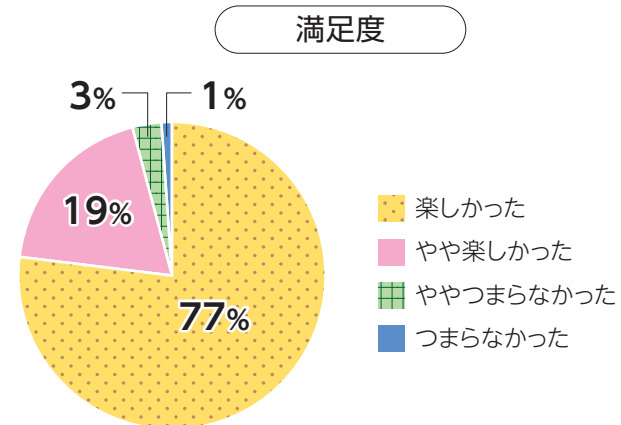
脱皮直後

3-5 調査後のアンケート

調査に対する満足度

リーダー等を除く参加者に対して、調査後にアンケートへの回答をお願いしました。319人の参加者から271の回答を得ました。

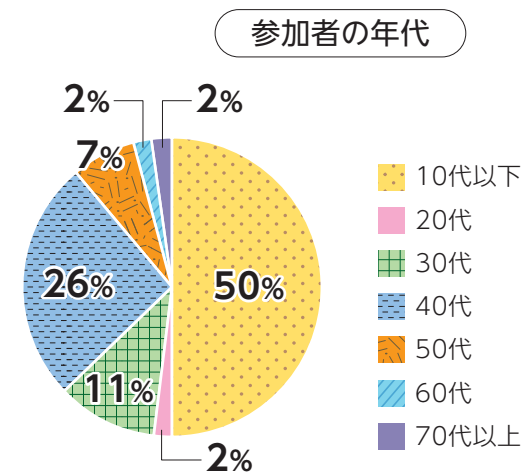
調査に対して77%の人が「楽しかった」と答え、「やや楽しかった」を含めると96%になりました。ほぼすべての参加者にエビ・カニ類の調査を楽しんでいたようです。



参加者の年代について

本調査を実施した地点では、参加者の年代及びイベントの広報媒体についてもお尋ねしました。

参加者のうち最も多かったのは10代以下で、そのうち小学生が9割を占めていました。次いで40代、30代と続き、小学生を含む家族連れが多く参加されていたようです。一方で、20代、60代、70代以上の参加は少ないという結果でした。子どもたちの関心が高かったようです。

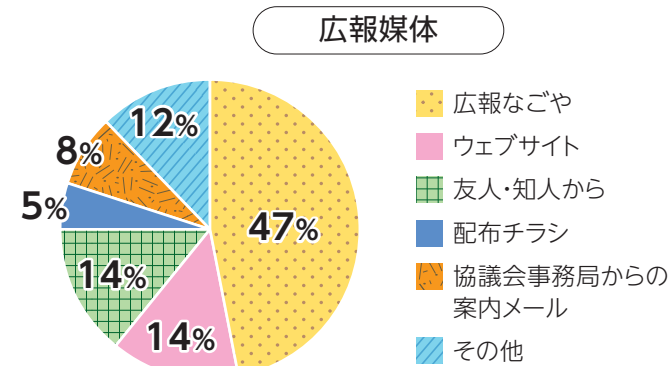


広報媒体について

参加者を広報媒体別に分類すると、今回は広報なごやで知ったという人が約半数と最多でした。次いで、ウェブサイト、友人・知人を介して知ったと続きます。

昨年と比較すると、広報なごやの割合が大幅に増加し、一方で友人・知人を介して知ったという割合は減少しました。

今後も様々な広報媒体の活用しながら、多くの方に参加していただけるよう情報発信に取り組んでまいります。



参加者の声

アンケートでは、「楽しかったこと、面白かったこと」や「ご意見・ご感想・改善点」を自由に記載していただきました。楽しかったとの声をたくさんいただき、普段は使うことのないワナに何が入っているかわくわく感でいっぱいの様子でした。また、今回はワナによる調査のみでしたが、子どもたちからガサガサをしたかったという声が上がっていました。

楽しかったこと 面白かったこと

- ・ザリガニをつかまえたり、とったりすることができ楽しかった。
- ・モンドリを仕掛けてあるところから引き上げるときドキドキした。
- ・実物を観察できてよかった。間近でじっくり見れてうれしかった。
- ・身近な場所にも多くのザリガニがいることを知り、楽しかったです。

(アンケートより一部抜粋)

ご意見・ご感想・ 改善点

- ・こんな調査をやっていたことを初めて知った。また参加したい。
- ・意義がある活動でよいと思う。子どもが参加することで学ぶ機会になっている。
- ・生きものの種類や生態を丁寧に解説してもらえたのが良かった。
- ・ザリガニが入っていなかったことが残念
- ・泥をガサガサしてエビやカニが入っていることを期待した。
- ・子どもにもっと手触り感があるとよかった。
- ・ワナの数を増やしたり、種類を増やすと捕れる生きものが多くなるのではないか。

(アンケートより一部抜粋)

今後も皆さんに楽しんでいただけるような調査となるよう努めてまいります。

コラム

アメリカザリガニの体の中に白い石!

ザリガニの仲間は、何度も脱皮をしながら成長していきます。

ただ、あの硬い殻をつくるには、たくさんのカルシウムが必要ですが、川や水路を流れる水の中には、カルシウムがあまり入っていません。

では、アメリカザリガニはどうしているのでしょうか?

アメリカザリガニは、自分が脱皮した殻を食べてしまいます。でも、殻をつくるために必要な成分はあるものの、脱皮した殻はやわらかく、それだけではカルシウムは足りません。

じつは、脱皮が近くなると殻に含まれるカルシウムを胃の中に集めて石をつくり、脱皮後に溶かして、新しい殻を硬くするために使います。

この、胃の中にできる白い石を『胃石』と呼び、半球状のものが2個つくられますが、脱皮後に体内に吸収され、3日ほどでなくなってしまいます。

そのため、あまり目にする機会はありませんが、飼っているアメリカザリガニが共食いしたあとの水槽の中や、野外でサギなどの鳥が食べたあとなどに見られることがあります。

ザリガニ類の胃石を、漢方ではオクリカンキリと呼び、江戸時代の日本ではニホンザリガニの胃石を薬として使っていました。



胃石(約6~8mm)

4. 同定資料



なごや生きもの一斉調査 2024 簡易同定表 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～



アメリカザリガニ
Procambarus clarkii
条件付特定外来生物



メスの腹



オスの腹

アメリカザリガニ科の甲殻類。1927年に北アメリカから持ち込まれた。

体長（はさみを入れない大きさ）は最大で15cmほど。生殖器や腹肢の場所や形などからオスとメスが見分けられる。

オス



抱卵中のメス



ミズレヌマエビ
Caridina leucosticta

額角の先端に小さな歯があり、腰が強く曲がることや、メスが小さな卵を多く抱えていることが特徴。



ミズレヌマエビの額角



カワリヌマエビ類の額角



カワリヌマエビ類
Neocaridina spp.

外来種。額角の先端に歯が無く、腰の曲がり方が弱いことが特徴。

なごや生きもの一斉調査 2024 簡易同定表 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～



額角

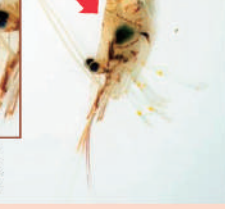


“m”の形

テナガエビ
Macrobrachium nipponense
テナガエビ科テナガエビ属。特に小型のものはスジエビに似るが、額角の歯が細かく、胸部の模様が“m”のような3本線を持つという特徴がある。



額角



逆さハの字

スジエビ
Palaemon paucidens
テナガエビ科スジエビ属。額角の歯は5～7本でテナガエビより荒く、胸部の模様が逆さハの字になる。またチュウゴクスのジエビと違い逆さハの字の線はまっすぐ伸び、目



かぎ状の模様

チュウゴクスジエビ
Palaemon sinensis
テナガエビ科スジエビ属。中国などの大陸から来たといわれる外来種。スジエビとは違い胸部の模様がかぎ状に曲がる。またスジエビより目が小さく、額角の先端には歯がない。



成体

モクズガニ
Eriocheir japonica
モクズガニ属。海と川を行き来する。



サワガニ
Geothelphusa dehaani
サワガニ属。きれいな沢などにすむ。



コイ



↑コイの口元にはヒゲがある

フナの仲間



モツゴ



タモロコ



尾の付根↓黒斑

↑タモロコの口元にはヒゲがある

オイカワ（オス非婚姻色）



オイカワ（オス婚姻色）



顔に追星があらわれる

尻ビレが大きくなる

コウライモロコ



口元にヒゲが2本

ドジョウ



口元にヒゲが10本

タイリクバラタナゴ



ブルーギル※



エラ蓋に青い斑紋

ミナミメダカ

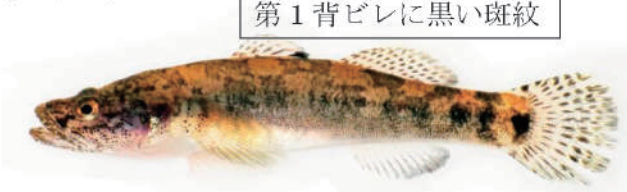


ミナミメダカは尻ビレと尾ビレが丸くない
カダヤシのオスの尻ビレは交接器になっている

カダヤシ（上：メス、下：オス）※



ウキゴリ



第1背ビレに黒い斑紋

腹ビレが吸盤になっている

ヨシノボリ類



腹ビレが吸盤になっている

※ブルーギル、カダヤシの2種は外来生物法において特定外来生物に指定されている。

5. 活動アルバム



千種区 茶屋ヶ坂公園(茶屋ヶ坂池)



千種区 名古屋大学 (学内のため池)



中川区 荒子川(八田水の広場)



中川区 松葉公園(公園内の池)



西区 庄内緑地公園(ガマ池)



中村区 庄内川(名城大学附属高等学校付近)



港区 戸田川緑地(とだがわ生態園)



昭和区 隼人池公園(隼人池)



瑞穂区 山崎川(山下橋付近)



守山区 小幡緑地(竜巻池)



守山区 雨池公園(雨池)



守山区 八竜緑地(新池)



緑区 大高緑地(砦池)



名東区 猪高緑地(塚ノ杵池)



名東区 猪高緑地(めだか池)



緑区 大高緑地(緑地内の湿地)



緑区 滝ノ水緑地(滝ノ水北池)



名東区 牧野ヶ池緑地(牧野池)



天白区 双子池



緑区 新海池公園(新海池)



名東区 猪高緑地(すり鉢池)



天白区 植田川(なごや生物多様性センター 付近)



南区 呼続公園(曾池)名古屋市立桜台高等学校

ニホンザリガニって、なごやに生息しているの？

ザリガニは、子どもたちに大人気のエビ・カニの仲間です。ザリガニを捕まえて、真っ赤なザリガニをアメリカザリガニ、茶色の小さなザリガニをニホンザリガニと思っている人はきっと多いと思います。インターネットで検索すると、東北より南の地域でニホンザリガニを捕まえたという話がいくつも出て来ますが、本当にそれはニホンザリガニなのでしょうか？

では、まず、ニホンザリガニとはどんなザリガニなのでしょう？

ニホンザリガニは、日本に生息しているザリガニ類（ニホンザリガニ、アメリカザリガニ、ウチダザリガニ）と定着の可能性があるミステリークレイフィッシュの4種類の中で唯一の在来種で、北海道と東北地方の一部にだけ生息する日本固有種です。湧水が豊富な湿地や冷たくて綺麗な水の小川や池沼に巣穴を掘って生活しています。体色は主に茶褐色で、アメリカザリガニのように赤くならず、ずんぐりした体型で、額にある角（額角）も鋭く尖ってはいません。



ニホンザリガニ(札幌市)

開発による生息地の破壊や外来生物の影響などで生息数が減っていて、環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類（VU）に選定されています。また、『種の保存法』の特定第二種国内希少野生動植物種に指定され、販売目的の捕獲などが規制されています。

さて、ここで本題に戻りますが、名古屋市内にニホンザリガニは生息しているのでしょうか？

まず、自然分布域は北海道と東北地方の一部なので、元々の生息地ではありません。

では、誰かが放したとしたら？

本州の一部には、大正時代に北海道からニホンザリガニが持ち込まれ、平成時代にも断続的に放流されている可能性がある地域があるとされていますが、愛知県内に移植されたという記録はありません。もし、名古屋市内に放流したとしても、ニホンザリガニは水温が20℃を超える場所では生息できないので、真夏の暑さを耐え抜いて生きていくことはほぼ不可能です。

残念ですが、名古屋市内にニホンザリガニは生息しておらず、真っ赤なザリガニも茶色の小さなザリガニも、実際にはどちらも同じアメリカザリガニなのです。

ニホンザリガニについてもっと知りたい方は下記ページをご覧ください。

なごや生物多様性保全活動協議会

https://bdnagoya.jp/calendar/pdf/isseichousa2024_houkokusho_ebikanihen_column.pdf



参加者・参加団体一覧（敬称略・順不同）



以下の方々にご参加いただきました。

青木渉、阿知和果奈、阿知和宗太、天野和夫、天野陽香、飯田綾子、飯田悠人、飯野道彦、伊坂昇真、伊坂俊保、伊坂裕子、伊坂友那、石川郁葉、石川純二、石川翔、石樽純子、石黒隼三、石田由吉、石原彩香、市岡真有、市場光、市場正浩、井月愛子、伊藤晃規、伊藤陽規、伊藤寛武、伊藤有香、稲川みき子、稲森基、井上隼輝、今井洸貴、今井鎮雄、今泉いずみ、今泉響歌、上田健人、上野瑤奈、上野璃空、上野聖青、ウゼル メテハン、ウゼル利江子、内多權里、内多泰地、内多陽介、宇野総一、榮野あゆみ、恵谷芽実、恵谷里奈、大越絢斗、大越高明、大島孝太、大島俊輔、大嶋正憲、大嶋みのり、大嶋美映、大西礼華、大西崇太、大西崇文、大西史人、大主順一、大畑瑛士、大畑裕子、大矢晃、大矢美紀、大矢芳樹、岡田壮平、岡田泰成、岡村穰、岡本浩平、岡安哲史、岡安毅、岡安智子、小倉直樹、小山内満、小澤奏杜、小澤修一、鹿住坦、片岡亜輝、片岡孝之、片岡凌久、加藤有人、加藤岳、加藤聖子、加藤大典、加藤大地、加藤宏美、加藤美沙、加藤宗徳、加藤友梨美、金井香澄、金井健雄、金井尚澄、加納一輝、神谷則之、川口碧海、川口志保、川村俊之、河守恵美、河守遥、木田健心、木田麻衣、鬼頭秀和、木南圭人、木南日奈太、木南泉枝、貴船貢、キキ・ヌル・アザム・コリル、木村志寿、木村時士、久保山麻利江、久保山陽太、熊澤慶伯、クリス・ヘルトン、栗本圭、栗本紗弥、栗本真沙美、光野泰地、光野梨菜、小嶋一翔、小嶋めぐみ、木場田貴彦、木場田峻吾、小林真理子、近藤記巳子、在間晴、在間裕子、酒井亮平、坂下和則、坂下凜南、坂本里江、佐野碧一、佐野佳世、ジェシー・ヘルトン、芝崎有近、芝崎恵理、柴田裕加子、柴田凰雅、柴田佳代、柴田誠、柴田唯斗、柴田凌羽、柴山浩二、柴山道成、杉浦泉、杉浦光、杉山美桜、杉山勇斗、鈴木瑛人、鈴木貴公美、鈴木淳子、鈴木颯太、鈴木貴之、鈴木遥佳、鈴木雅美、鈴木悠生、鈴木佑真、妹尾瑤子、祖父江仁志、祖父江純子、高岡留美、高木和彦、高橋健太、高橋晴太、高橋由佳、瀧山創、田京弘一、竹内麻未、竹内あやめ、竹内琥珀、竹内真也、竹島生翔、竹島ちひろ、武田和樹、竹本俊太、竹本敏隆、田中授、田中昌之、田中実穂、谷幹雄、谷村圭亮、谷村大典、谷村陽子、谷村李音、田幡真一朗、俵山航、俵山紗弥、俵山友作、千田公孝、千田拳太郎、千田翔太郎、塚本岳、辻恵美、辻優乃介、恒川亜衣子、恒川敬心、恒川結心、角田葵、角田晃子、寺下晴琉、寺下勝、研谷厚、徳升章久、徳升咲太郎、中井かなえ、仲井進、中井裕子、中井悠人、中井悠真、長里孝義、中島典子、永田聡志、永田智哉、成瀬静、成瀬優舞、成瀬良舞、鳴海慶、鳴海三香子、西口晃生、西口潤、西口珠生、西村琉記、西脇勉、西脇直美、野口昞太郎、野口陽葵、野村健人、野村真由美、野村豊、袴田将仁、萩原正弥、橋爪雅明、橋爪幸美、秦サアヤ、秦輝明、服部航大、服部峻也、服部ともみ、花澤みどり、春田朝陽、春田良美、伴知幾、半谷麻衣子、半谷佳也、半谷莉央奈、平井小百合、平田魁、平田煌、平田紗織、平山希能、蛭薙泰地、蛭薙真理子、福井尚子、福島千絵、福田滝、福田凌太郎、藤岡カエラ、藤岡まりか、藤岡リュウセイ、舟橋弘晃、舟橋律、舟橋里帆、古川文子、古山湊介、古山友紀子、細江裕樹、細江凜太郎、細江真澄、堀柊太郎、堀すみれ、堀隆行、堀真由子、堀桃香、前川幸代、前野響子、前野圭子、前野朴春、牧野巨樹、牧野寛生、牧野美保、牧野百華、松井香菜、松井真菜、松井亮二、松岡直人、松岡智紀、松本紳一郎、松本遥、松本有生、松本容子、丸山華愛、三神雄義、三神達義、三神由美、水野いづみ、水野理恵子、水野葉子、水野創喜、見田輝、見田光代、宮田葵斗、宮田昇平、宮田結翔、村上学史、村上純子、村上元寿、村田瑛莉、村田健太郎、村田章輔、村土瑛斗、村土友美、籾山良子、森歩美、森川晴つみ、森睦代、守谷英司、守谷健利、森悠真、安井弘、保田貴博、山口翔瑚、山下久美子、山田明代、山田哲也、山田やえ子、山田佑子、山本真子、山本佑紀、湯田カケル、湯田カンナ、湯田茂雄、横井敦史、横山悠理、吉崎康晴、吉崎大和、吉野陽太、吉野暢哲、脇井綾子、脇井宏都、和田咲、和田安史

 連携団体の調査地点では以下の方々にご参加いただきました。

【ユース】

名城大学附属高等学校 吉川靖浩、生徒16人、名古屋市立桜台高等学校 石川知穂、生徒7人

また、以下の団体にご参加をいただきました。

【なごビオ会員】

相生山緑地自然観察会、愛知守山自然の会、雨池ホタルの会、大高緑地湿地の会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会、名古屋自然観察会、
名古屋市立大学理学研究科附属生物多様性研究センター、日本カメ自然誌研究会、花水緑の会、
名東自然倶楽部、山崎川グリーンマップ

【なごやの森づくりパートナーシップ連絡会会員】

水源の森と八竜湿地を守る会

【その他の団体】

公益財団法人名古屋市みどりの協会、(株)サンゲツ、名古屋大学生物研究会

調査に参加いただいた市民・団体の皆様、ご協力ありがとうございました。



【引用・参考文献】

- 張 成年ほか. 2018a. スジエビ *Palaemon paucidens* の2タイプを判別するためのDNAマーカーおよび日本における2タイプの分布. 日本水産学会誌, 84(4): 674-681.
- 張 成年・柳本 卓・丸山智朗・池田 実・松谷紀明・大貫貴清・今井 正. 2018b. スジエビ *Palaemon paucidens* の遺伝的分化. 日本生物地理学会報, 73: 1-16.
- 林 健一. 2000. 日本産エビ類の分類と生態 (114) テナガエビ科・テナガエビ亜科-テナガエビ属③. 海洋と生物130, 22 (5): 468-472.
- 林 健一. 2007. 日本産エビ類の分類と生態Ⅱ. コエビ下目 (1). (ヒオドシエビ上科・イトアシエビ上科・ヌマエビ上科・サンゴエビ上科・オキエビ上科・イガグリエビ上科). 生物研究社, 東京. 292pp.
- 今井 正・小笠原長護・斉藤英俊. 2020. 名古屋市における淡水エビの外来種チュウゴクスジエビの記録. なごやの生物多様性, 7: 71-75.
- Kakui, K. and T. Komai. 2022. First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdocoela) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp *Neocaridina* sp. aff. *davidi* (Decapoda: Caridea: Atyidae). Aquatic Animals, AA2022-1.
- 環境省, 日本の外来種対策, <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>, 2025年1月18日確認
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 環境省レッドリスト2020について, <https://www.env.go.jp/press/107905.html>, 2025年1月16日確認
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 国内希少野生動植物種一覧, <https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/list.html>, 2025年1月16日確認
- 川井唯史・大高明史. 2009. 日光市で発見されたニホンザリガニ二個体群の由来、および大正時代に北海道から本州に持込まれた個体に関する宮内庁公文書等に基づく情報. 弘前大学教育学部紀要, (101):31-40.
- 川井唯史・白濱和彦. 2011. ニホンザリガニの博物学的知見Ⅲ 一名称と利用一. 浦幌町立博物館紀要, 11:19-35.
- 川井唯史・砂川光朗. 2010. 「大正天皇のニホンザリガニ」についての新知見. CANCER, 19:39-40.
- 小林 哲. 1999. 通し回遊性甲殻類モクズガニ *Eriocheir japonica* (De Haan) の生態-回遊過程と河川環境と観察. 生物科学, 51: 93-104.
- 益子計夫. 2011. テナガエビ類はいかに進化してきたか. 川井唯史・中田和義 (編). エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学, 生物研究社. 東京. 273-289 pp.
- 村上興正・鷲谷いづみ. 2002. 日本の侵略的外来種ワースト100. 日本生態学会 (編). 外来種ハンドブック, pp. 362-363. 地人書館, 東京.
- 名古屋市. 印刷中. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2025 -動物編-. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課編, 名古屋.
- 中嶋清徳・斉藤知己. 2021. アメリカザリガニ. 愛知県環境調査センター (編). 愛知県の外来種 ブルーデータブック あいち2021, p94. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 愛知.
- 中田和義・浜野龍夫・天野邦彦・三輪準二. 2011. 淡水性エビ類の生態と保全. 川井唯史・中田和義 (編). エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学, pp.148-166. 生物研究社, 東京.
- 西野麻知子. 2017. 日本への外来カワリヌマエビ属 (*Neocaridina* spp.) の侵入とその分類学的課題. 地域自然史と保全, 39: 21-28.
- 岡村祐里子・西 史江・榊原 靖. 2012. 名古屋市内の河川に生息する水生生物 (底生生物, 魚類). 名古屋市環境科学調査センター年報, 1: 84-89.
- 沖縄奄美自然環境事務所, 沖縄県内におけるミステリークレイフィッシュの野外初確認について, https://kyushu.env.go.jp/okinawa/press_00106.html, 2025年1月16日確認
- 寺本匡寛. 2015. アメリカザリガニからみた名古屋市のため池・河川の現状-なごや生きもの一斉調査2014-. なごやの生物多様性 2: 11-22.
- 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339 pp.



『アメリカザリガニとエビ・カニ類クイズ!』の答え

- | | | |
|-------------|---------------|---------|
| ① チュウゴクスジエビ | ② アメリカザリガニ | ③ サワガニ |
| ④ テナガエビ | ⑤ アメリカザリガニの胃石 | ⑥ モクズガニ |